

中播磨新地域ビジョン検討委員会第3回産業部会 議事概要
(検討テーマ：環境保全、産業・働き方の魅力発信と人材育成・誘致システム)

■ゲストスピーカーによる話題提供

○環境保全

《説明要旨》

- ・2050年に向けて、中播磨の人と自然の共生を考えるときに、地球温暖化という視点が、非常に大きな影響を持つ。気温・海水温、異常気象・災害、海洋の酸性化など非常に大きな環境変化が起きている。
- ・特に環境保全において、自然生態系については、温度が上がることにより、植物や動物の住む環境が変わり、今まで存在できた生物が消えていき、新たな生物が出てくるのが非常に懸念されている。
- ・二酸化炭素の増加で温暖化が進むと、植物にも影響があるため、農業においても品種を変えないと稲作ができないなどの問題が現実になってきている。また、様々な畜産や果樹関係、森林でもそういった問題が起きてくる。
- ・これまで炭素の排出を減らそうとする「低炭素」の取組が進められてきたが、今後は「脱炭素」を強く進める必要がある。
- ・企業が自ら電力を100%再生可能エネルギーにするRE100という国際的な取組が進められつつある。
- ・2050年は、脱炭素をどう中播磨で進めていくのかということが大きな課題
- ・炭素を減らそうとすると、一方で環境保全の面で問題が出てくるといった諸刃の剣のような影響（例：山を削り太陽光発電をすることでCO₂の削減は図れるが、森林が破壊され、土砂流出の危険性が高まる）が多くある。両方を上手く調和させることが今後の課題
- ・人間と生態系を切り離して説明されることが多いが、人間も生物であり、生物が増えたり減ったりすることにより、自然は非常に大きく変わる（人間の増加によりゴミや廃棄物は増え、人間の減少により里山の管理は困難に）
- ・里山を支えるボランティアの団体数や人数は、飽和状態であり、どちらかというとも減少気味。ボランティア頼みだけでは、環境保全も解決は難しい。
- ・30年後に社会の中心となる今の子ども世代が環境問題に対してどう意識を持つか、学んでいくかが非常に重要であるため、環境学習は重要

《質疑等》

〈委員〉

- ・脱炭素に向かうなかでCO₂を排出してしまう現状は、農業も同じ。
- ・農家が使う大きいトラクターやコンバインは、現状でガソリンエンジンやディーゼルエンジンばかりのため、環境のことを考えるとあまり良いと言えない。

〈委員〉

- ・漁業では、既に海水の温暖化が始まっており、20~30年前にいたシャコやアナゴ、イカナゴ等がいなくなる一方で、かつていなかった沖縄にいるような魚が少しずつ見られるようになっている。

- ・自然の魚ではなく、人間が管理できる養殖関係は、多少水温が高くても品種改良を行うことで対応可能
- ・漁獲量の減少に伴い、事業規模が縮小され、漁業者の人口は減少し漁業は衰退

〈委員〉

- ・山肌をいびつな形で太陽光パネルが占めており、災害とエネルギーがぶつかり合っている。考え方を整理の上、最低限必要な倫理観の啓蒙や教育が必要

〈委員〉

- ・再生可能エネルギーと環境保全は諸刃の剣という話があったが、どちらかが犠牲になることは持続可能と言えるか。それともどちらかのロスが少なくなるようにして達成することが持続可能となるのか。

〈ゲストスピーカー〉

- ・環境はバランスのなかで成り立っており、様々な選択肢のなかで、どのような組み合わせが人も含めた環境に対して良いかということを考えていくことが大事（厳しすぎる規制など極端な対応をすると、環境はバランスを失う）

■意見交換①

○環境保全

〈ゲストスピーカー〉

- ・環境保全を考えると、30年後に望ましい環境は何か、30年後までその環境を保全したいかどうかをきちんと整理する必要がある（現状の環境が悪いのであれば改善する必要があるかもしれない。温暖化が進むのであれば、それに対応できる自然環境をつくる必要があるかもしれない）
- ・戻したり保全したりしながら、人間が自然環境の良さを体験する場は必要

〈委員〉

- ・環境分野は目標設定が難しいが、様々な状況の変化に適応できるよう、できることから進めていくことが大事

〈委員〉

- ・2050年を想像すると、農業においても実際に田んぼで米が作られているかどうか分からない環境になっているかもしれない。
- ・温暖化で生物が変わってきている一方で、鹿や猪などの害獣も含めた野生生物もゼロにするのではなく、ある程度共存できるようにすることが必要
- ・田んぼが持っているダムの役割なども今後は大事になると思う。

〈委員〉

- ・温暖化の傾向にどう適応していくかについて、温暖化を緩和させる方法と、温暖化を前提として適応する方法の2通りの考え方がある。

〈委員〉

- ・温暖化による米の品質の低下に対し、高温に強い品種への改良が行われている。
- ・全てハウスのなかで育てて水や温度の管理ができれば良いが、そういうわけにもいかないため、品種改良や、天候を予測する栽培管理等により対応
- ・フードロスが農業に直接的に関わってくる問題。食物残渣で作った堆肥等の活用が、ビジネスとして徐々に進みつつある。

〈委員〉

- ・漁業においては、海の底を耕すことが、次の魚を呼ぶことに繋がり、栄養に連鎖していく。
- ・人間が海を綺麗にしようとして、浄化した栄養のない綺麗な水を海に流した結果、30～40年の間に海の生態系が変わり、海の栄養がなくなってしまった。海を綺麗にしようとする環境保全が漁業にとって一番の課題になる。
- ・フードロスについては、かつては魚屋で訳ありの魚が売れていたが、今は店先には正規の魚しか並べることができず、訳ありの魚は市場に出せないため、多くのロスが生じている。

〈ゲストスピーカー〉

- ・環境汚染物質については規制していく必要があるが、窒素やリン等は栄養塩であり、その名のとおり栄養である。
- ・人間も栄養を摂り過ぎると肥満や成人病の原因になるように、地球環境にとっても栄養を取り過ぎたり出し過ぎたりすることは問題。海は綺麗な海ではなく、栄養塩が適正に供給されている「豊かな海」を目指すべき。

〈委員〉

- ・「豊かな海」と「豊かな自然」は30年後に目指すべき将来像のキーワードになる。

〈委員〉

- ・金属加工において、金属を削る機械は油を使用するため CO₂ を排出するが、油の量が少ないものに切り替えるような地道な取組は行っている。
- ・姫路市では従業員規模が30人以上の企業では、そのような意識が高まっていると思う。小規模企業にアプローチをしていくことが削減に向けた一つの方策
- ・中播磨における環境産業は、特別遅れてもいないが進んでもいないため、意識を持てば伸びるポテンシャルは十分あると思う。環境保全の発想やシステムを一つのモデルにして、ビジネス化されるかもしれない。

〈委員〉

- ・フードロスをどう事業化するかというところで、工業と農業の連携に期待

〈委員〉

- ・環境保全は非常に長い期間がかかる取組であるため、子どものうちから環境の大切さを刷り込むことが重要
- ・比較的豊かな環境である中播磨において、完全な形でなくても良いので、ICTや高齢者・若者・移住者等を活用しながら、トライ&エラーができるような環境保全のビジネスができれば良い。

〈ゲストスピーカー〉

- ・持続可能にするためには、環境だけを切り離して保全することはあり得ない。人間も自然のなかの生き物の一つであり、共生をどのように捉えるか。
- ・時代が変われば意識も変わり 2050年がどのような意識になるか分からないが、私は豊かな自然は人間が生きるために必要なものであり、人と自然との関わりは必要だと思う。

〈委員〉

- ・2050年に目指す姿のキーワードとしては、「清潔な自然」よりも「豊かな自然」

という言い方が正しいと思う。

- ・それに向かって、それぞれのセクターができることをしていくことが重要であり、農業と工業の連携も考えられる。
- ・中播磨の持っている産業のポテンシャルを、豊かな環境を目指すうえで生かし、他の地域の環境保全に貢献できるような産業システムをつくっていくシナリオを考えることができる。

■意見交換②

○産業・働き方の魅力発信と人材育成・誘致システム

〈委員〉

- ・中播磨地域でフリーランスがどこまで根づいていくか考えたとき、副業的な活用が現実的な方向性だと思う。国や自治体で大きな枠組みとして制度化していくと、よりトライしやすい環境になっていくのではないか。
- ・外国人は、いかに地域コミュニティが受け入れることができるかが一番のポイント。外国人とともに地域を育てるような取組が何かできればと思う。

〈委員〉

- ・古い世代の人は必死に働くことやリスクをとって新しいことをすることを美徳としていたが、これからの若い人は安定した生活がなければリスクをとらない。
- ・余裕のある暮らしや働き方ができることが産業の魅力にもなる。介護や子育てと両立できるような働き方をどう模索していくかが重要である。

〈委員〉

- ・当社では、早い段階から外国人採用を実施しており、オーストラリアやアメリカ、マレーシアなど様々な国の人を採用してきた。
- ・外国人従業員とは、どのようにしてコミュニケーションをとるかが一番重要である。コミュニケーションは相手のことを一方的に理解するだけではなく、こちらの考え方やミッションを共有することが大事
- ・今後、人口減少は避けられないが、減った分を外国人で補うという意味ではなく、海外の人と接することでダイバーシティや多様な働き方などいろんな気づきがあるので、外国人の雇用は大事
- ・外国人実習生は定型的な仕事には向いているが、試作開発のようにチャレンジする仕事には向いていないと感じたため、現在は採用していない。能力や向き・不向きのタイプ等もあるので、正社員と実習生の使い分けは必要

〈委員〉

- ・5～6年続けていると慣れてくるが、新しい人の方が素直で使いやすいという船主の意見があり、外国人実習生は3年交代で迎え入れている。
- ・外国人実習生は様々な問題があり苦労もあるが、実習生なしということは考えられないため、徐々に解決していく必要がある。
- ・日本人でも若い漁業者には、やる気を疑うような人もいる。ハングリー精神に欠け、もの足りなく感じるが、これも時代の流れなのかと思っている。
- ・若者のニーズに応えるため、週休2日制を導入し、余裕のある仕事の仕方を目指している。

〈委員〉

- ・若者は未熟な部分もあるため、週休2日を用意したからその分働かなければいけないといったことを、上手く伝えていくことが大事だと思う。
- ・若い人のニーズも聞きつつ、産業として成り立たせる必要がある。

〈委員〉

- ・漁業と同様、天候の関係もあり、農業で余裕のある働き方は難しい部分もある。
- ・スマート農業などを活用して効率化を図り、週休2日の導入など、農業分野でもこれからは最低限のラインは守っていく必要があると思う。
- ・農業の体験では、収穫体験のような簡単なものだけでなく、もう少し深い体験を入り口にして、多様な農業の推進を図っていく必要がある。
- ・若者は、農業の起業やビジネスの部分で新しい人を増やしていくことが必要
- ・高齢者は、お金にはならないが、家庭菜園などの「やりがい」の農業がこれから大事になる。今後、人生100年時代を迎えるにあたり、定年後に始めるやりがいとしての農業、ちょっとした生活の糧になる農業も必要だと思う。
- ・大規模化・効率化した儲かるビジネスとしての農業と、やりがい農業の組み合わせもあり得ると思う。例えば販売が得意な人には斡旋の仕事、高齢者には袋詰めの手伝ってもらするなど、上手い組み合わせでその人のやりがいづくりに繋がる可能性はあると思う。
- ・子育て世代のフルタイムで働くことができない人にも、幼稚園のお迎えまでの間などのパートタイムで関わってもらえると思う。

〈委員〉

- ・農業も工業も、全員がフルタイムで儲かるビジネスをする組織体だけが存在し、競争しているところがあるが、今後はもっと選択肢を増やしていき、そのなかで組み合わせを考えていくことが大事
- ・体験なども含めて、産業の中でも様々なバリエーションをつくりながら、組み合わせていくような姿が望ましく、それに伴い働き方も多様になってくる。
- ・外国人にとっても、高学歴を得て稼いでいきたい人や、出稼ぎのような人もいるため、両方の受け皿があることは良い。

〈委員〉

- ・採用した外国人労働者と関わっているなかで、仕事を与えたときに、どういう部分でモチベーションが上がるかを観察したことが、今に生きている。
- ・先頭に立つ経営者はハードに情熱を持って仕事をし、そういう人間が今のバランスのとれた働き方を認めていくことが大事だと思う。

〈委員〉

- ・世代が変わり、若い世代に渡していく際に、普通に安心して暮らせる状況を用意することは大事であり、そういうふうに組織や事業を変えていくことが必要
- ・様々な選択肢が出てきているなかで、望む働き方と仕事をマッチングする情報センターのような組織やネットワークが、多様性が高まるなかでは必要（その役割を行政が担うのか、それともそれ自体をビジネスにして民間が担うのか）
- ・様々な働き方が出てくるなかで、今後、多様な関わり方ができていくと思う。

(以上)